



学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」



とひのかふち

《学校だより》 第5号

令和3年6月16日発行
湯河原町立湯河原小学校
校長 北村和裕

6月に入り、梅雨入りかと思われましたが、気温が高い晴天の日が続きました。暑くなってくると心配なのが熱中症です。コロナ対策としてマスクを着けての生活が続いていますが、特に登下校の時や外遊びや体育の運動の際には、気をつけなければなりません。暑いときや体調がすぐれないときには、マスクを外す場合もあります。コロナ対策と熱中症対策の両面を考えながらの生活となります。子ども達の命と健康を守っていくために、ご家庭でもご協力をよろしくお願いします。

校章のなぞ？！

現在の本校の校章は、湯河原町の町章をもとにしたもので4代目になります。では初代はというと、大正4年に制定されたササリンドウに「土」という字（当時は土肥村だったため）で表されたものでした。



梅原さんと加藤さん

先日、梅原雄蔵さんと加藤雅喜さんが来校され、梅原さんがあるものを寄贈してくださいました。明治42年に本校が「尋常高等土肥小学校」という名前になり、2階建ての校舎を増築したときにお祝いに配られた記念品です。110年前のものが今も残っているのも驚きですが、さらに驚くのは、濃紺の布に刺繍されている絵です。大正4年に校章に制定されたササリンドウによく似ています。湯河原の歴史に造詣の深い加藤さんは「これが湯河原小学校の初代の校章だった可能性があるのではないか。」と話されました。本校の歴史を綴った「学校沿革誌」で調べてみると、「大正4年に児童の帽子徽章を制定し」と書いてあります。つまり、校帽のマークとして使われたということですが、それを「校章」として制定したのでしょうか。しかし、明治42年の校舎落成という一大イベントの時に配られた記念品のデザインのササリンドウです。校章と関係があるのではないかと考えてしまいます。なぞは深まるばかりです。なにしろ110年前のことですから。しかし、なぞだからこそ、追究してみたくなくなってしまいます。校章について何か情報をお持ちの方は、本校までご連絡をお願いいたします。



寄贈された記念品
明治42年



初代の校章
大正4年制定



2代目の校章
昭和6年制定



3代目の校章
昭和13年制定



現在の校章
昭和37年制定

がんばっています！教育実習生

5月31日（月）から4週間、2人の大学生が教育実習を行っています。青木さんと半田さんで、2人とも本校の卒業生です。青木先生は6年2組で子どもたちの指導にあたりながら、半田先生は養護教諭をめざしているので保健室に来る子どもたちと関わりながら、意欲的に実習を進めています。教員になろうと思ったきっかけは、2人とも「小・中学校の時の先生に会いたい」だそう。未来の先生をめざし、一生懸命に活動する2人を、子どもたちも先生方も心から応援しています。



ありがとうのリレー

毎朝、校門の前に立っていると、落とし物を拾って来る子が意外と多いです。以前はその場で受け取るだけでしたが、最近は、名前が書いてある場合、届けてもらうようにしています。先日も「ハンカチが落ちていました」と持ってきてくれた子に「〇〇と名前が書いてあるね。〇〇さん、知ってる」「はい」「じゃあ、届けてくれるかな」「わかりました」「頼むね。ありがとう」という会話。届けてくれる子に「ありがとう」と言い、それが届けば落とし物が拾ってくれた子に「ありがとう」と言ってくれるだろう。落とし物を通して「ありがとう」のリレーができる。そんなことを期待して、届けてくれるよう頼んでいるのです。

(その他、子どもたちの様子は学校のブログに掲載中)

<https://www.yusho.site/>